



5月号 令和4年4月28日発行

窪田小だより

横浜市都筑区窪田南町694番地 [Tel.911-0149]

[<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/eda/>]



子どもたちの学び

～解決方法を模索したり、折り合いをつけたりすること～

校長 伊藤 智樹

新しい学年・学級になって3週間が過ぎました。この間子どもたちは、新しい環境に慣れてきたころではないでしょうか。本校の特色でもある縦割り活動も、感染対策に配慮をしながら少しでも実りのある楽しい内容になるように子どもたちと一緒に考えながら進めています。その子どもたちの姿に校長として感謝の気持ちでいっぱいです。

子どもたちは日々の生活の中で、いろいろな経験を積んでいきます。経験の中には達成感や満足感を伴うこと、納得できることだけでなく、思いどおりにならないことにもたくさん出会うことと思います。人間関係や勉強のこと、遊びのこと、友達関係など、思いどおりにならないことのほうが多いかもしれません。これは子どもだけでなく私たち大人も含めて人間の社会全般に言えることです。

自分の意見に対して周囲の友達は賛同してくれず思い悩むことは誰にでも経験したことはあると思います。意見を貫き一人でも行動すべきか、異なる意見を尊重し意見を撤回すべきか、さらに双方が納得できる点を見つけるべきなのか。そのようなとき、解決方法を模索したり、折り合いを付けたりすることは、生きていく上でとても大切なスキルだと感じます。

このスキルは学校教育全体で培っていきませんが、「特別活動」の目標の中に以下のように記載されています。



集団活動における合意形成は、他者に迎合することでも、相手の意見を無理にねじ伏せることでもない。複数の人がいる集団では、意見の相違や価値観の違いがあって当然である。そのため、集団における合意形成では、同調圧力に流されることなく、批判的思考力をもち、他者の意見も受け入れつつ自分の考えも主張できるようにすることが大切である。そして、**異なる意見や考えを基に、様々な解決の方法を模索したり、折り合いを付けたりすることが**、「互いのよさや可能性を發揮しながら」につながるのである。

【小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編 原文より抜粋】

特別活動の目標に記載されている『**解決方法を模索する**』『**折り合いをつける**』ということは重要なスキルで、子どもの時から様々な体験を経て身につくものと思います。その根底にあるのは「**相手の立場に立って考え、相手を思いやる優しさ**」であると思います。子どもたちはこれから遊びや学習、日常生活などの中で譲り合い、我慢すること、解決に向けて努力すること、感謝する気持ちなどを身に付けていきます。子どもたちは思い通りにならないことを一つ一つ乗り越えながら成長していきます。思い通りにならないことも成長には欠かせない要素でもあると考えます。



私たち大人は子どもたちを温かく見守りながら良いところは認めるとともに、「思いどおりにならない時」を成長のきっかけとして捉えることも大切です。子どもたちの実態や状況に応じた指導助言をする役割が私たち大人にあると言えます。引き続き子どもたちの成長に向けて教職員一同力を合わせていきたいと思ひます。